

備陽史探訪の会「徒歩例会」

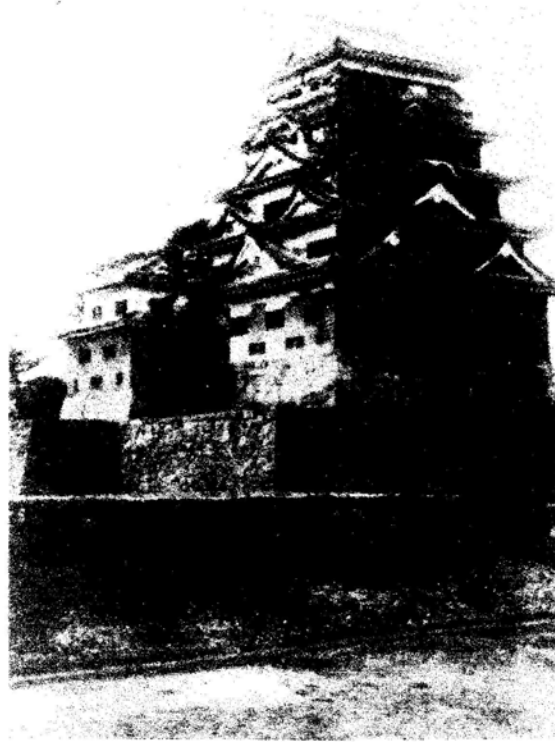
— 福山城下町誕生の起点 —

城北を歩く

平成 24 年 11 月 25 日

午前 9 時半～午後 3 時半

出発 福山駅北口噴水前



◆ **福山駅**

明治 24 年 私鉄「山陽鉄道」開通（岡山－尾道）

明治 39 年 山陽鉄道が国有化

昭和 50 年 「山陽新幹線」開通（岡山－博多）・「福山駅舎」落成

いづらちようじんぞう

「五浦釣人像」山陽新幹線の開通と福山駅舎の落成を記念して昭和 50 年、駅前に建立。

平櫛田中（福山市名誉市民）が恩師岡倉天心をモデルに作成したレプリカ。

◆ **女徳福山女学校跡** （南東二之丸下段）

明治 32 年 「女徳福山女学校」創立

大正 10 年 地吹町へ移転（現老人大学）・「門田高等女学校」に改称

昭和 44 年 「市立福山高等学校」に改称

昭和 49 年 赤坂町（現在地）へ移転

南西三之丸（現・県立歴史博物館・駐車場）には明治 39 年創立の「町立福山女学校」（のちの県立福山高等女学校、現・県立葦陽高等学校）があった。

◆ **堀**

イ) 内堀 幅 17m～33m 深さ 2m～3m

ロ) 外堀 幅 30m～50m 深さ 2.5m～3m

◆ **御屋形跡** （東三之丸）

- ・（備陽六郡志）水野家 2 代勝重（勝俊）は当初、勝成が藩主時代に居た本丸御殿に住居していたが、手狭なため、三之丸東側に「御屋形」を建て此处に移る。
- ・（福山領分語伝記）水野家 3 代勝貞は病を得、療養のため先代勝俊が干拓した福山沖新涯に新たに「下屋敷」（現 中央公園・南小学校一帯）を建てる。以後、三之丸御屋形を「上屋敷」と称するようになる。
- ・享保 7 年（1722）、阿部正福の治世、下屋敷は焼失。以後、「御茶屋」となる。
- ・安政 2 年（1855）、阿部家 7 代正弘により御茶屋は「誠之館」となる。

◆ **福山城の建造物** （備陽六郡志ほか）

(1) 天守（五重五階・地下一階） 付櫓（二重三階）

・昭和 20 年 8 月 8 日、空襲で焼失。

・昭和 41 年（1966）、市制 50 周年記念事業（大正 5 年 1916 福山市誕生）として月見櫓・御湯殿と共に再建。

(2) 本丸御殿

・本丸御殿の内、伏見城から移設された建物は鏡櫓西にあった表居間だと考えられている。本丸御殿は「伏見御殿」と称されるが、建物すべてが伏見城から移設されたわけではない。

・御殿は明治初期、御湯殿を残して売却された。

(3) 櫓 三重櫓 6 基、二重櫓 17 基、平櫓 2 基、 計 25 基。

（備陽六郡志）鐘櫓は多門櫓上の鐘楼として櫓には含めず（番櫓に数えられていない）。

江戸時代は「鐘撞堂（かねつきどう）」と呼ばれていた。

イ) 『本丸』 3重1基 2重10基 計11基

今昔図	番櫓 (阿部期)	(本丸左回り)		移設元 (備陽六郡志)	破却・売却時期	再建時期
①		天守付櫓	2重	新築	昭和20年 空襲	昭和41年
③	内一番櫓	月見櫓	2重	伏見城	明治初期	昭和41年
④	二	鏡櫓	2重	新築	〃	昭和48年
⑤	三	亭(カ)櫓	2重	?	〃	なし
⑥	四	玉櫓	2重	神辺城	〃	なし
⑦	五	塩櫓	2重	神辺城	〃	なし
⑧	六	内六番櫓	2重	新築	〃	なし
⑩	七	荒布(アラメ)櫓	2重	神辺城	〃	なし
⑫	八	人質櫓	2重	神辺城	〃	なし
⑮	九	火打櫓	2重	伏見城	〃	なし
⑯	十	伏見櫓	3重	伏見城	現存(重文)	

ロ) 『二の丸』 3重5基 2重4基 平2基 計11基

今昔図	番櫓 (阿部期)	(二の丸左回り)		移設元 (備陽六郡志)	破却・売却時期	再建時期
⑳	外一番櫓	鹿角菜(ヒジキ)櫓	2重	神辺城	明治初期	なし
㉒	二	東坂三階櫓	3重	?	明治初期	なし
㉓	三	鬼門櫓	3重	神辺城	明治初期	なし
㉖	四	乾(イヌ)櫓	3重	?	明治初期	なし
㉗	五	神辺四番櫓	2重	神辺城	明治初期	なし
㉙	六	神辺三番櫓	3重	神辺城	明治初期	なし
⑳	七	神辺二番櫓	2重	神辺城	明治初期	なし
㉑	八	神辺一番櫓	3重	神辺城	明治初期	なし
㉓	九	櫛形(クシガタ)櫓	2重	神辺城/伏見城	慶応元年焼失	なし
㉔		鍵(ヤリ)櫓	平櫓	?	慶応元年焼失	なし
㉕		鉄砲櫓	平櫓	?	慶応元年焼失	なし

ハ) 『三の丸』 2重 3基

今昔図	(三の丸左回り)		移設元 (備陽六郡志)	破却時期	再建時期
④⑧	二重櫓 (南櫓・御水門口)	2重	?	明治初期	—
⑤⑩	二重櫓 (東南櫓・入川先端)	2重	?	明治初期	—
⑤⑫	物見櫓 (涼櫓・駅北口ファミリーマート西隣)	2重	?	昭和20年 (空襲)	—

(4) 空襲（昭和20年8月8日）で焼失した建造物

今昔図	建造物
①	天守・付櫓
⑱	御湯殿
⑵	物見櫓（涼櫓）
	葦陽館※

※「葦陽館」
明治21年、荒廃した福山城公園の繁栄策として株式会社を設立して本丸月見櫓跡に貸席として建設。



葦陽館（月見櫓跡）

(5) 現存する建造物・遺構

今昔図	建造物	場 所	文化財
⑲	伏見櫓（三階櫓）	本丸南西櫓	重要文化財
⑰	筋鉄御門	本丸正門	重要文化財
⑭	鐘櫓（鐘撞堂）	本丸多門櫓上鐘楼	市重要文化財
	岡本家長屋門	城内屋敷門 現・鞆町保命酒店門	市重要文化財
	旧内藤家長屋門	城外屋敷門 現・小丸山	市重要文化財
	実相寺山門	（伝）城内屋敷門 現・実相寺	指定なし

(6) 伏見城からの移設物（備陽六郡志・福山領分語伝記）

今昔図	伏見城より移設	「福山領分語伝記」 (1715～ 1748年頃)	「備陽六郡志」 (1740年代～ 1770年代前半頃)
⑲	御殿（伏見御殿）		○
⑱	御風呂屋（御湯殿）		○
⑰	三階櫓（伏見櫓）	○	○
⑮	火打櫓		○
③	月見櫓		○
	多門櫓	○	○ 380間
⑴	大手御門（三之丸）	○	
⑳	鉄御門（二之丸）	○	
	大手門橋（外堀）	○ 擬宝珠付	△ 擬宝珠付
	東御門橋（外堀）	○ 擬宝珠付	
	鉄御門橋（内堀）	○ 擬宝珠付	△ 擬宝珠付
	本橋（入川）	○ 擬宝珠付	△ 擬宝珠付 “天下橋と称す”

伏見櫓二階の梁
「松ノ丸ノやくら」

擬宝珠

△ 移設元の記載なし

(6) 筋鉄御門すじがねごもんは伏見城から移設？ (新版福山城 ほか)

筋鉄御門は伏見城からの移設が通説となっているが、その記録は見当たらない。この説は昭和7年から大阪毎日新聞に掲載された郷土史家濱本鶴賓が執筆した記事から多くの書籍に載せられるようになったと思われる。

伏見城から移設された二之丸の鉄御門が取り違えられたものと考えられ、昭和8年、筋鉄御門が国宝に指定されたこともこの説に拍車を掛けたと思われる。

◆ 水野勝成みずの かつなり像 (二之丸上段)

(1) 「福山藩」10万石余で立藩 (福山市史)

- ・寛永3年(1626)、勝成は従四位下じゅうし いげに官位が昇進により相模国愛甲郡厚木村1千石が加増、10万1千石余となる。
- ・水野家改易後、元禄検地の結果、15万石だったため、五万石分、幕府に没収、天領となる。

水野家遺領の配分 (福山市史)			
郡	水野時代 (村数)	検地後 (村数)	
	福山領	福山領	天領
甲奴郡	24		24
神石郡	37		37
芦田郡	28	28	
品治郡	23	23	
安那郡	28	18	10
深津郡	32	32	
沼隈郡	43	43	
小田郡	27		27
後月郡	1		1
愛甲郡	1		1
	244	144	100



福山藩水野家家紋
「抱き沢瀉」



福山藩阿部家家紋
「右重ね違い鷹羽」

(2) 水野勝成 (56) の入封 (福山市史・おもしろふくやま史)

元和5年(1619)8月4日 鞆津着→綱木(南蔵王町1丁目)→塩たれ道→神辺城

(3) 城地決定 (福山市史・西備名區・福山志料)

「候補地」 ①深津郡野上村常興寺山 ②品治郡桜山 ③沼隈郡箕島

「築城開始」 元和5年(1619)冬

「完成・正式入城」 元和8年(1622)8月

(4) 城名・地名の命名 (福山市史・新版福山城)

イ) 城名

- ・(通称) 福山城
- ・(正式名) 鉄覆山てつおおうざん (敵追山てきおひさん) 朱雀院久松すざくいんひさまつ 城じょう ※「久松」= 松寿長久
- ・(詩情名) 葦陽城いようじょう

ロ) 地名「福山」

- ・諸説 ①寿山福海 → 福山 ②常興寺山 (蝙蝠山) → 福山
③宝山 (洗谷金鶏山) vs 福山 (常興寺山)

◆ 巖谷小波句碑 (二之丸上段)

- ・巖谷小波 (いわやさざなみ) は明治・大正期の児童文学の大家。東京市出身。「日本昔話」「日本お伽噺」を連載して「桃太郎」「猿蟹合戦」「花咲爺」を再生させた。
- ・句碑の一带は福山製紙創業者田中八九郎が屋敷を構え、大正期に入って一带に桜の木を植え始め、桜の名所となった。
- ・昭和38年、東京芝・増上寺にて小波三十年祭が催されたのを記念して小波顕彰会によって小波句碑が全国各地に建立された。
- ・句碑 「桜さく 日本に生まれ 男かな 小波」

◆ 阿部正弘像 (二之丸上段)

- ・宝永7年(1710) 阿部正邦、宇都宮より福山入封
- ・水野家改易後の元禄検地により、福山藩は10万石が15万石となったため、松平氏、阿部氏は5万石を没収され、天領となる。
(のち、神石郡小島付近2万石は豊前国中津藩領)
- ・阿部家は徳川家譜代で福山藩主10代の内、老中4人就任
3代正右、4代正倫、5代正精、7代正弘
- ・阿部正弘(7代藩主)
天保14年(1843) 老中就任(25)。
弘化2年(1845) 老中首座昇進(27)。
嘉永5年(1852) 老中職功績により1万1千七百石余加増。(福山市史)
安那郡(8村)、神石郡(15村)、後月郡(2村)
嘉永7年(1854) 日米和親条約締結
安政2年(1855) 福山誠之館創立
安政4年(1857) 病没(39才)

◆ 五千石蔵跡

- ・(江戸期) 幕府から預かった兵糧米を収蔵する城米蔵(五千石蔵)
- ・(現在) 東側: 福寿会館・三蔵稻荷神社 西側: テニスコート・駐車場

◆ **天守礎石** (二之丸下段)

- ・天守は空襲で焼失したが、昭和 41 年 (1966)、市制 50 周年を記念して天守が再建されたとき、礎石を二之丸北側下段に移した。

◆ **小丸山**

(1) 福山城の史跡

①「国史跡 福山城跡」(二之丸&本丸) 昭和 39 年指定

②「市史跡 福山城跡小丸山」(三之丸) 昭和 48 年指定

- ・小丸山は城背に堀のない中、天然の要塞として三の丸の櫓の役目を担っている。
- ・(福山市史) 慶応 2 年 (1866) 6 月、第二次長州戦争で石州口に出陣した福山藩は途中、藩主阿部正方が病に倒れ、家老が指揮を執って益田で長州軍と先端を開くも敗退。正方は帰藩後、慶応 3 年 (1867) 11 月、城内で逝去、薩長軍侵攻を前にして死亡は秘匿された。遺体は明治元年 (1868) 1 月 9 日未明、長州軍の福山城攻撃の直前に極秘に小丸山に仮埋葬、その後、北本庄小坂山の「小坂山神社」に本葬された。

明治元年 (1868) 1 月 9 日朝、長州軍は本庄村円照寺より砲弾を本丸に一斉に放ち、また福山八幡宮から赤門西側に続く竹矢来を破り、小丸山に攻め掛けて来た。福山藩は降伏を決し、正使・三浦義建、副使・関藤藤陰による交渉により和議が成立した。

(2) **先人の森**

昭和 39 年、福山城が国史跡に指定されたため、文化庁より本丸内の明治以降の建造物は出来るだけ取り除くよう勧告を受け、そのため、水野勝成寿碑など本丸に建立されていた石碑を小丸山上の「先人の森」に移した。

i) 「水野勝成寿碑」

横死した父忠重の菩提を弔うため、寛永元年 (1624)、勝成が京都大徳寺の境内に瑞源院を創建。勝成の生前の慶安元年 (1648)、大徳寺江雪の撰文により勝成の生涯を記し、瑞源院境内に寿碑とした。勝成は 3 年後の慶安 4 年 (1651)、没している。寿碑は昭和 33 年 (1958)、廃寺となっていた瑞源院から福山に移され、本丸西側の人質櫓跡に建立されていた。

ii) 「寺地舟里の顕彰碑」

- ・(寺地舟里) 福山藩士、誠之館医学教授、同仁館病院教授兼院長
- ・(同仁館病院) 西洋医学を取り入れた藩営の医学校兼病院として明治 2 年、開校。明治 4 年、廃藩置県に伴い、僅か 2 年で廃校となった。跡地は駅前三菱東京 UFJ 銀行福山支店となり、支店前に“福山に新しい西洋医学の始まった地”という意味で「福山医学黎明の地」と題した石碑が建っている。

iii) 「江木鱒水の碑」

- ・東広島市河内町出身。阿部正弘に登用され藩の学制・軍制を改革。

誠之館兵学教授、第一次・第二次長州征討・函館戦争参謀。

長州軍の侵攻を前にして阿部神社背後の丘（松山）を削り、胸壁とする。

元石碑は明治 27 年(1894)、本丸鏡櫓と本丸東側石段の間に建立されていた。

ニ)「旧内藤家長屋門」(市重文)

弘化 3 年(1846) 建造

西堀端の家中屋敷内にあった内藤家長屋門を昭和 51 年、移築した。

◆ **福寿会館** (二之丸下段)

・江戸期は五千石蔵地の東部分にあった。(西部分はテニスコートになる)

(明治 23 年) 小山音吉(劇作家小山祐士の伯父)が所有、梨園とする。

(昭和 3 年) 安部和助(削り鱈・花かつお考案者)が東部分を所有、別荘とする。

(昭和 28 年) 岡山市材木商が購入し、澁谷昇(福山通運創業者)が買戻す。
澁谷氏は福山市に寄贈。市は「福寿会館」と命名。

(平成 9 年)「洋館」 登録文化財に登録。

(平成 24 年)「和式本館」 登録文化財に登録。

◆ **三蔵稻荷神社** (二之丸下段)

・江戸時代は二之丸下段にあったため、参拝は藩士のみに限られていた由。

・社伝 「御神体は勝成護身用の稻荷神」

「城の北側に住む三蔵と申す」

・能舞台 昭和 17 年 両社八幡から移譲 鏡板「松」藤井松林 作

◆ **備後護国神社** 三之丸 松山(天神山)

昭和 32 年 「阿部神社」と「備後神社」が合併。「備後護国神社」となる。

(1)「阿部神社」

・文化 10 年(1813) 阿部家 5 代正精、阿部家の祖霊を祀り「勇鷹神社」を創建。

・明治 10 年(1877) 勇鷹神社は県社となって「阿部神社」と改称。

(2)「備後神社」

・明治元年(1868) 阿部家 10 代正桓、函館戦争の戦死者を現・福山八幡宮の境内に「招魂社」として祀る。

・明治 26 年(1893) 招魂社を福山城人質櫓跡に遷す。

・昭和 14 年(1939) 官祭福山招魂社は県下二社のうち、県西部を管轄する「福山護国神社」となる。県東部は廣島護国神社。

・昭和 20 年(1945) 8/8 福山護国神社は鷹取川の埋立地(現・市立体育館)に大規模な社殿を建設中、空襲により焼失。

・戦後 占領軍の指示により福山護国神社は「備後神社」に改称。

(3) 「備後護国神社」

- ・昭和 32 年 (1957) 「阿部神社」と「備後神社」を合併し「備後護国神社」となる。合併に際し、阿部神社社殿を改修。社殿ならびに参道石段を西側に移し、本殿に護国神社、相殿に阿部神社を遷す。

◆ **宮本武蔵腰掛石** 備後護国神社境内

(1) 巖流島決闘後の武蔵

- ・武蔵は巖流島の決闘後、自らは仕官せず、二人の養子を出仕させて後見人となり、藩の客分となる。(一人は水野勝成の家臣中川志摩之助の三男・三木之助)
- ・慶長 20 年 (1615)、武蔵は大坂夏の陣で刈谷城主水野勝成の陣にいて継嗣・勝重付きの武将だった。
- ・寛永 17 年 (1640)、武蔵は熊本城主細川忠利に招かれ、客分となる。
- ・正保 2 年 (1645)、熊本で没。

(2) 宮本武蔵腰掛石

- ・勝成が福山入封後、武蔵は来福し、城代家老中山将監の屋敷を訪問。このとき、腰掛けた庭石が現在、備後護国神社境内に安置されている。

◆ **歩兵第 41 連隊関連慰霊碑**

明治 41 年、歩兵第 41 連隊が広島から福山へ移駐。以後、天津、朝鮮、満州、青島などに断続して出征。昭和 12 年、支那事変により北支に進駐してからは一度も帰国せず、中支、南支、仏印 (シンガポール作戦)、ニューギニアへ転戦の後、昭和 20 年 7 月 15 日、フィリピンレイテ島で玉砕。昭和 55 年、福山市はフィリピンレイテ島 (州) の州都タクロバン市と友好親善都市提携を締結した。

◆ **ふくやま文学館**

- ・平成 11 年開館。井伏鱒二 (加茂町出身。文化勲章受賞) の作品を中心に展示。
- ・「井伏鱒二の代表作品」
山椒魚・黒い雨・ジョン万次郎漂流記・姪の結婚・本日休診・駅前旅館・早稲田の森・漂民宇三郎・多甚古村・おこまさん・貸間あり・川釣り・珍品堂主人・さざなみ軍記・鞆ノ津所見・鞆ノ津茶会記
- ・「主な郷土作家」
福原麟太郎 (神村町 英文学者)、小山祐士 (笠岡町 劇作家)、木下夕爾 (御幸町 詩人・俳人)、島田荘司 (地吹町 ミステリー作家)

◆ **胸壁** 三之丸 松山 (天神山)

(1) 「胸壁」

- ・江戸時代を通して松山 (現 備後護国神社の山) の裏手に水野勝成によって創建された天神社があったため、「松山」を「天神山」とも称した。
- ・幕末、長州軍の来襲に備えて江木鱈水の建策により松山 (天神山) の北側を「胸

壁」とした。そのため、天神社を住吉神社境内（住吉町）に遷した。

- ・明治元年1月9日朝、長州軍は両社八幡の丘陵を占拠。城北「赤門」から西に続く竹矢来を押し破り、小丸山目指して攻めてきた。

(2) 「天神町・松山町」

大正7年、大字名の改称により、西町は分割され、天神町・松山町が誕生した。

天神町は胸壁から東側、松山町は西側となった。

- ・明治22年 町村制が施行。「福山町」（福山城下30町＋西町＋東町）が誕生。
- ・大正5年 福山町は野上村、三吉村と合併し、「福山市」となる。
- ・大正7年 福山市は大字名が改称。西町・東町・三吉村・野上村が分割される。

『西町』江戸時代の城北・城西・城南の武家屋敷・御用屋敷のあった地域
天神町、松山町、西町、桜町、三之丸町、新馬場町、築切町、延広町、
住吉町、（東・中・西）霞町 など。

『東町』江戸時代の城東の武家屋敷・御用屋敷のあった地域
寺町、東町、御船町、桜馬場町の西側

『三吉村』

三吉町、入船町、桜馬場町の東側

『野上村』

古野上町、野上町、沖野上町、地吹町、光南町、明治町、御門町、
松浜町、

- ・昭和40年 福山市は再度、町界・町名が変更され、現・住居名となる。

『消滅した町名』

松山町、天神町、古吉津町、新馬場町、神島町上市・中市・下市、築切町、
東堀端町、米屋町、桶屋町、深津町、府中町、鍛冶屋町、上魚屋町、下魚
屋町、新町、福德町、蘭町、中町、医者町、奈良屋町、大工町、古宮町

◆ 福山城下上水道

(1) 吉津川を城下の上水道に利用（福山水道史・福山市史・新版福山城）

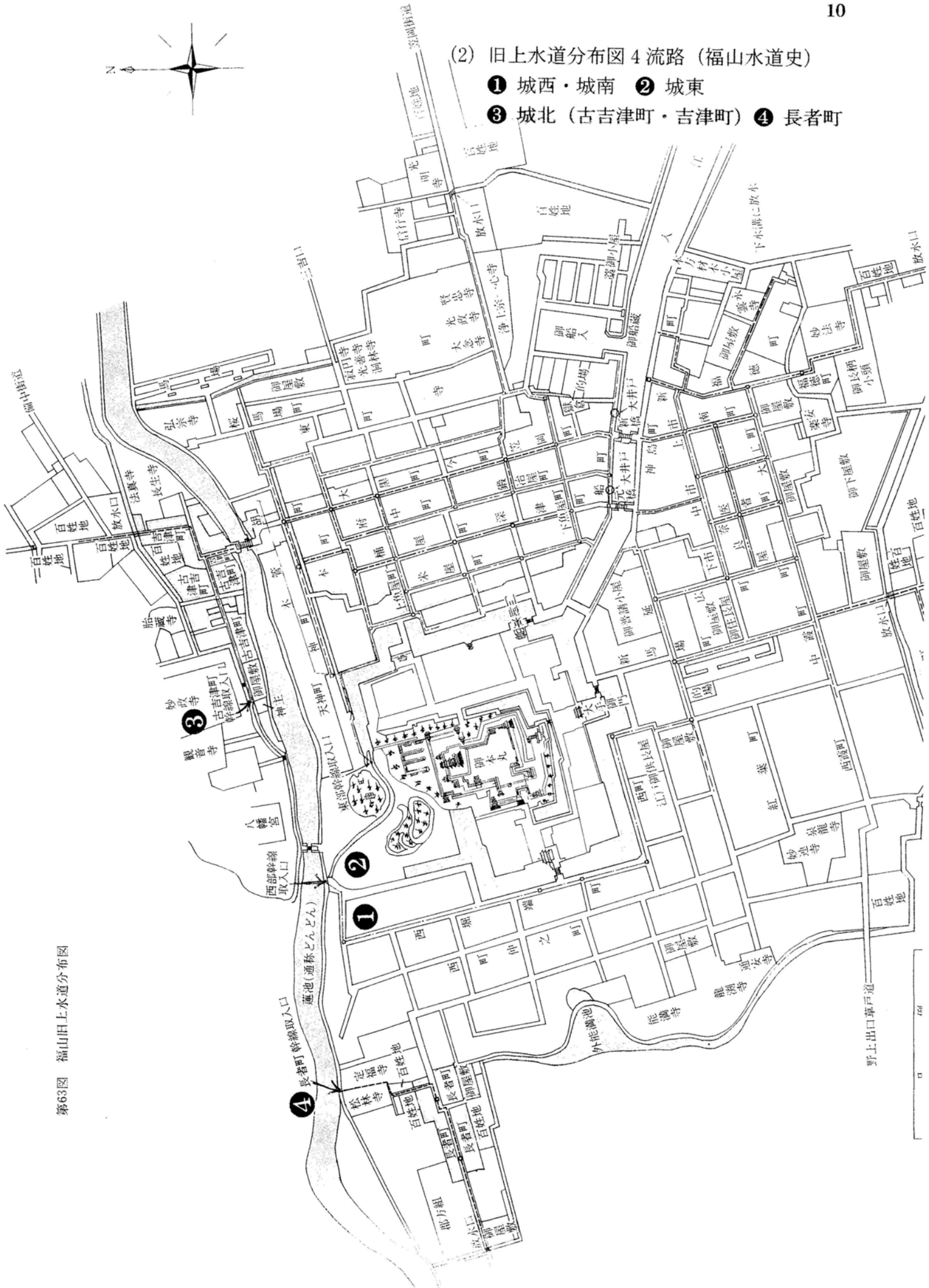
吉津川が城背の外堀の役目も担うよう、当初、吉津川を芦田川の本流とする計画は工事初年（元和6年1620）5月の大洪水により挫折。そのため、芦田川本流は草戸方面に向けて放流することとし、吉津川は城下の上水道に利用することになった。

渇水期では極端に水量が減少する芦田川から安定した水量を確保するため、芦田川と吉津川の分流地点の良の端（うしとらのはな）を堰き止め、芦田川上流の北本庄高崎（こうざき）から取水して水路勾配を高くすることにした。そして高崎から芦田川に並行して水路を造り、良の端二股から上井手と下井手に分け、上井手は市村沖・深津沖・引野佃沖の各新田への用水路とし、下井手は蓮池（ドンドン池）に導き、貯水池・浄水池として此处から4ルートに分けて城下の上水道とした。

①城西・城南 ②城東 ③城北（古吉津町・吉津町）④長者町

(2) 旧上水道分布図 4 流路 (福山水道史)

- ① 城西・城南
- ② 城東
- ③ 城北 (古吉津町・吉津町)
- ④ 長者町



第63図 福山旧上水道分布図

◆ 福山城下 30 町 (町人町)

(1) 福山城下の町人町は水野時代末には 30 町に及んでいる。(備陽六郡志)

『内町』 濱 (入川) より北

本町、胡町、大黒町、今町、笠岡町、上府中町、下府中町、鍛冶屋町、上魚屋町、桶屋町、深津町、上米屋町、中米屋町、下米屋町、下魚屋町、船町北側

『神島』 濱 (入川) より南

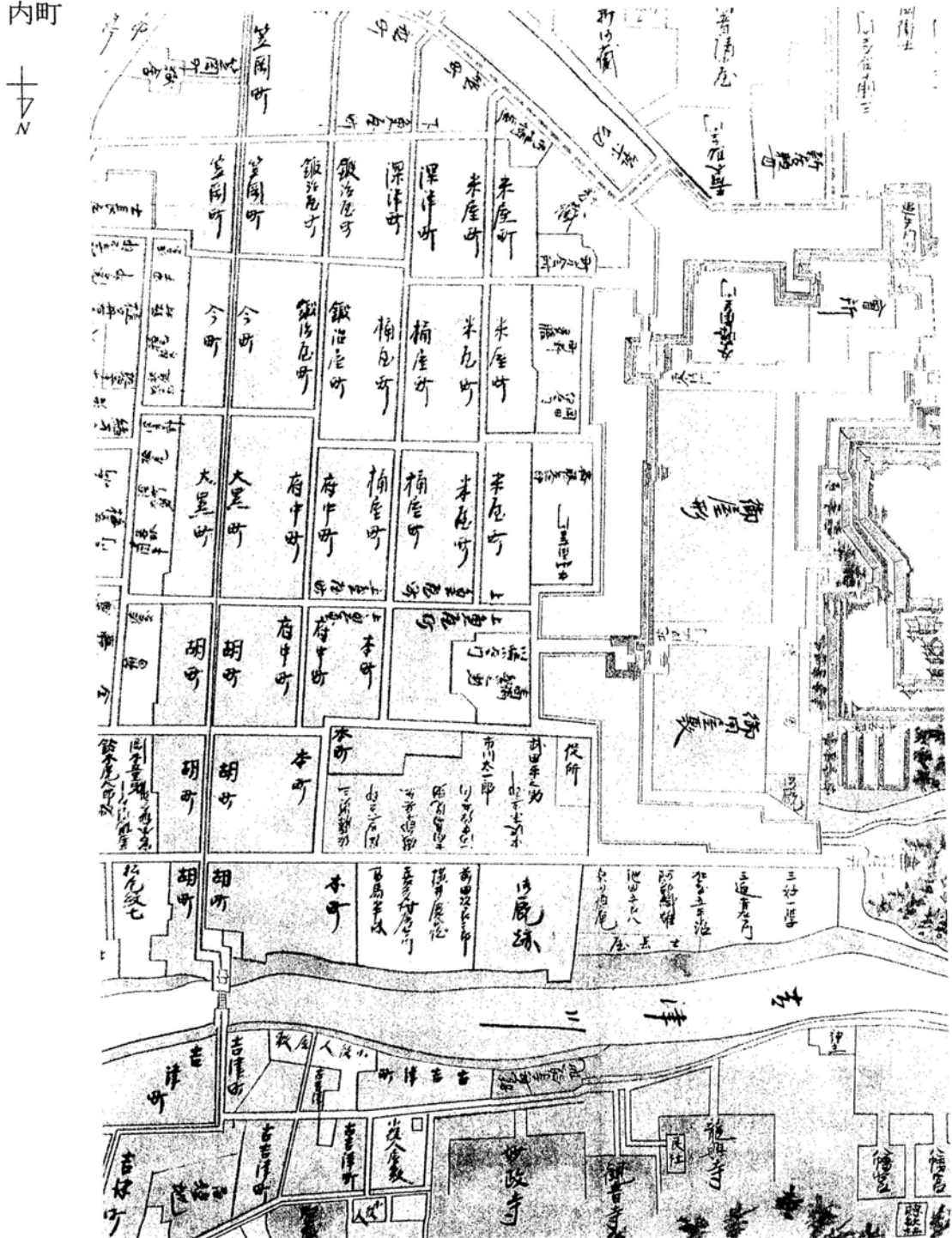
船町南側、神島上市、神島中市、神島下市、下新町 (のち新町)、奈良屋町、医者町、中町、大工町、藺町、上新町 (のち福德町)

『その他』

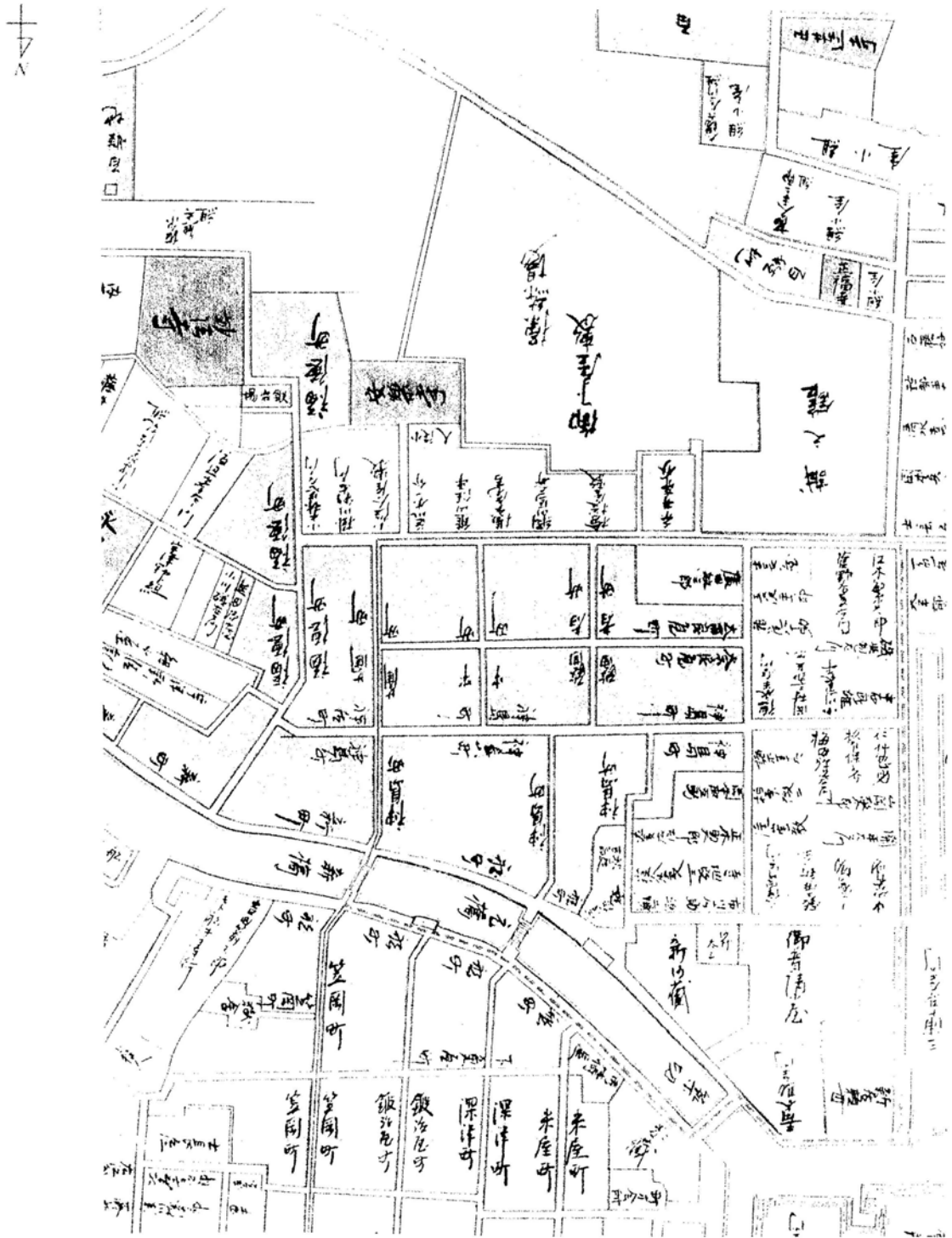
吉津町、古吉津町、道三町、長者町

(2) 廢藩直前福山城下地図

イ) 内町



口) 神島



◆ 水野時代干拓史 (小場家文書・福山市史・おもしろふくやま史)

(1) 「第一期」 水野家初代勝成～2代勝俊の時代 約35年間

- 元和 5年 (1619) 勝成 福山入封
- 寛永 16年 (1639) 勝成致仕・勝俊襲封
- 慶安 4年 (1651) 勝成 没
- 承応 4年 (1655) 勝俊 没

i) 勝成の藩主時代

- ・惣奉行 城代家老 中山将監
- ・城下町の建設と野上堤防（本庄良の端から五本松）の築造が干拓第一期の基本事業だった。その結果、野上新涯（現野上町）が誕生した。

ii) 勝成の隠居・勝重（勝俊）の藩主時代

- ・惣奉行 小場兵左衛門利之、神谷治部
- ・勝成は藩主を辞職することにより自由な身となって新田開発に専念するようになり、以降、木之端新涯・三吉村の開拓を始めとして吉田・市村沖・引野佃沖・深津沖など深津高地東側を中心に新涯地の干拓が行われた。

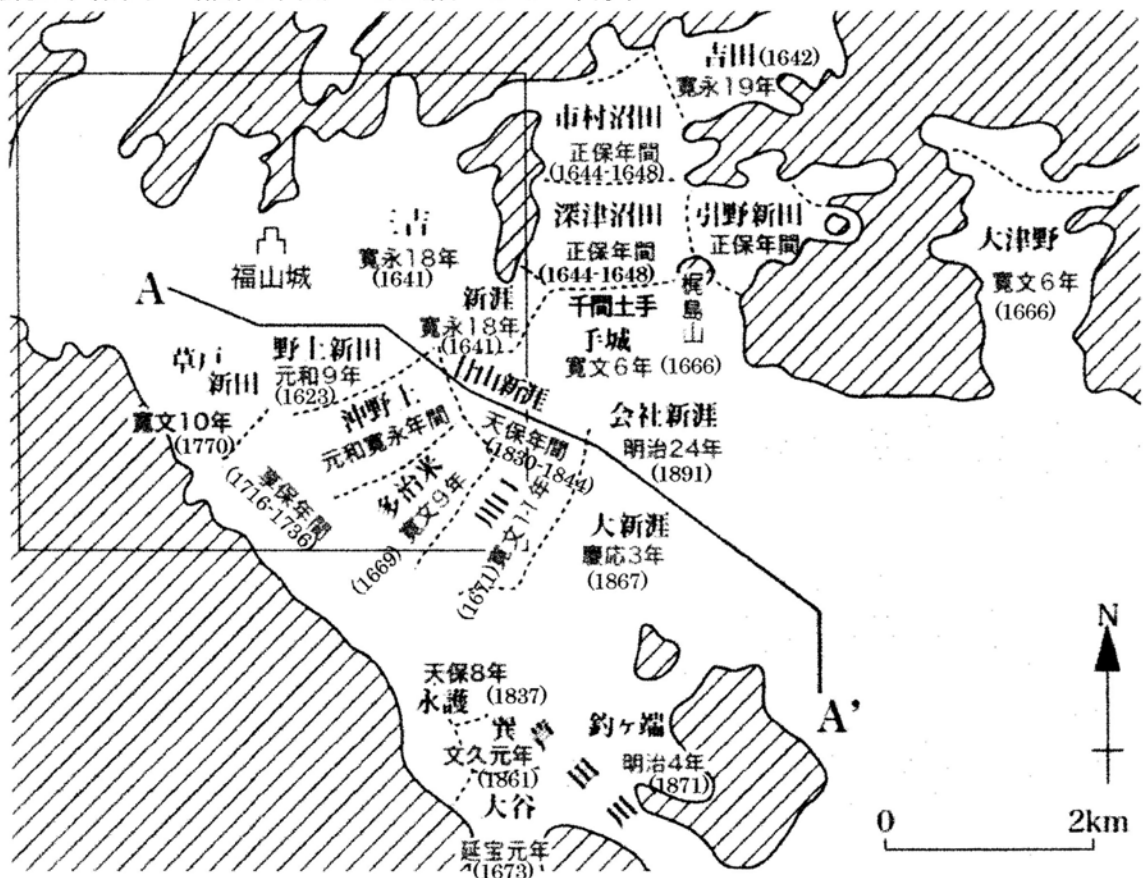
(2) 「第二期」 本庄重政の時代 約20年間

- ・本庄重政 承応3年(1654) 出仕 ~ 延宝4年(1676) 没。
- ・松永では寛文7年(1667)に本庄重政による「松永塩田」、福山では寛文6年(1666)から手城新涯を始め、寛文9年(1669)には多治米新涯、寛文11年(1671)には「川口新涯」など福山平野南部が次々と誕生した。

(3) 「第三期」 水野家断絶まで 天和年中(1681) ~ 元禄11年(1698)

- ・内陸部に藩営ではなく、在地豪農の発起による小規模の新田開拓が数多く進められた。

(4) 新涯干拓図 (福山市史 地理編 2010年版)



◆ まつのおやま
松廻尾山を巡る大寺の変遷

(備陽六群志・福山領分語伝記・岡本家文書韜光寺・妙政寺史・おもしろ福山史)

・^{とうこうあん}「韜光庵と永徳寺」 廃寺

室町時代初頭、杉原氏の一族・吉津の平居士によって現妙政寺の地に「韜光庵」が結ばれた。韜光庵は杉原氏の庇護のもとにやがて松廻尾山一帯（西は福山八幡宮から東は妙政寺）が境内となる大寺に発展し、「永徳寺」となった。永徳寺は同じく杉原氏の庇護を受けた「常興寺」と共に京都諸山に列せられるようになった。

ところが、杉原氏は安土桃山時代（天正期）になると毛利氏によって滅亡したため、永徳寺も衰退、勝成が福山入封した頃は廃寺となり、境内跡地には塔頭として「韜光庵」だけ残されていた。

・^{こうじゅうじ}「弘宗寺」 現桜馬場町

勝成は韜光庵の謂れを聞き、韜光庵の本尊観音菩薩を本尊とした大寺を福山城鬼門の現西深津町の岩山に建立し、自らの菩提寺にすることにした。そのため、取り敢えず、現妙政寺の地に韜光寺に擬えて小寺を建て観音像を安置し、寺名を「弘宗寺」とした。

ところが、勝成は間もなく島原の乱（寛永15年1638）に藩を挙げて出陣し、そのため財政は逼迫、勝成は財政立て直しのため、藩主を致仕し、干拓事業に没頭、大寺建設は延期された。しかし、慶安4年（1651）、勝成が没したため、大寺を建てる計画は消滅した。

・^{みょうしやうじ}「妙政寺」 現北吉津町

4代藩主勝種（2才）の代となり、実権を握った城代家老上田玄蕃は寛文6年（1666）、東町にあった上田家の菩提寺であり、また2代勝俊の菩提寺ともなった「妙政寺」を松廻尾山（北吉津町の現在地）に移した。その場所は弘宗寺が建っていた。

・^{とうこうじ}（韜光寺） 現木之庄町

そのため、弘宗寺は城下東町（桜馬場町の現在地）に移されることになり、同時に韜光庵も木之庄三津木山（木之庄町の韜光寺現在地）に移された。韜光庵はその後、弘宗寺住持によって「韜光寺」と改称した。

・^{けんちゆうじ}（賢忠寺） 寺町

勝成は弘宗寺を深津岩山に移し、菩提寺とすることを図ったが、果たせず、2代勝俊によって勝成の父忠重の菩提寺が「賢忠寺」であったため、勝成も賢忠寺に葬られ、3代勝重、4代勝種も賢忠寺が菩提寺となった。

◆ **福山八幡宮** 北吉津町

(1) 由緒

		延広八幡（東の宮）	野上八幡（西の宮）
承保年中	1074 ～ 1077	宇佐八幡宮から檜木谷（伏見櫓下）に勧請、「惣堂八幡」を創建（伝承）	
永享年中	1429 ～ 1441		鶴岡八幡宮から野上に勧請、「野上八幡（若宮八幡）」を創建（伝承）
天文年中	1532 ～ 1555		山手銀山城主杉原盛重、野上から松山（天神山）に遷す
元和6年	1620	水野勝成、城地のため、神島下市（現 宮の小路公園）に遷す	水野勝成、城地のため、松山から再び野上に戻す
明暦年中	1655 ～ 1658	水野家3代勝貞、神島下市から新町（現住吉神社）に遷す	
寛文2年	1662	水野家御家騒動のため、「惣堂八幡」は「延広八幡」に改称	
両社八幡 ・ 福山八幡宮			
天和3年	1683	水野家4代勝種、「延広八幡（西の宮）」と「野上八幡（東の宮）」を同一規模・同一様式で松廻尾山（現在地）に遷す。 両社合わせて「両社八幡」と称される。	
昭和44年	1969	両社八幡は合併、「福山八幡宮」と改称	
昭和59年	1984	鎮座三百年大祭（1863年 両社遷宮）を記念し、「中央拝殿」を造営 この年、東の宮の屋根が葺き替えられ、以後、25年毎に西の宮と交互に葺き替えられる。平成21年（2009）、西の宮の屋根が葺き替えられた。	

(2) チェックポイント

・ **同一形式・同一規模の社殿**

本殿・幣殿・拝殿・隋神門・石段69段・鳥居・惣門

・ **勝成奉納の燈籠** 慶安元年（1648） 西の宮の裏手◆ **総敏神社** 北吉津町

・ 神社名の由来は勝成が“總明にして敏なる人柄”から總敏の名が付いた。

享保5年	1720	水野家に縁ある有志が両社八幡の丘陵上に「總敏神社」を建立
文化13年	1816	福山「總敏神社」から下総国結城藩に勧請、「聡敏神社」を創建
幕末		阿部藩士で国学者松本良遠は整備された阿部神社と荒廃した總敏神社を対比して狂歌を詠む。 「 <u>総髮</u> の乱れし髪を結わずしてキンカ頭を <u>結うおうとは</u> 」 (總敏) (勇鷹)

大正3年	1914	總敏神社が再建され、現在の社殿となる
昭和59年	1984	中央拝殿建設のため、總敏神社が西の宮の奥（現在地）に遷される

◆ **龍興寺**（曹洞宗）北吉津町

- ・ 神辺から城下草創期、現在地に移った。その跡は神辺龍泉寺。
- ・ 神辺時代は城主福島丹波守の菩提寺と伝わる。
- ・ 勝成が成羽鶴首城主三村親成（親重）の食客となっていた三村親成以下4代の位牌がある。三村氏の子孫が水野家に仕えて以降、龍興寺は三村家の菩提寺になったものと思われる。
- ◎ チェックポイント
 - ・ **地藏堂** 常興寺境内にあったものを移したと伝わる。

◆ **良神社** 北吉津町

- ・ 古くから吉津荘の産土神で社伝では“天永3年（1112）の創建で平成24年（2012）は900年目に当たり、旧福山最古の神社”と詠っている。
- ・ 勝成が福山城築城に際し、寺は胎蔵寺、神社は良神社を鬼門（良）の守護として祀った。

◆ **観音寺**（真言宗）北吉津町

- ・ 深津（水野記）または草戸（福山志料）から城下町草創期、現在地に移ったと伝わる。
- ・ 江戸期には良神社の別当寺
- ・ 北吉津町は戦災に受けていないが、建造物で文化財指定をうけているのは観音寺の表門（県重文）ならびに本堂（県重文）の2件だけである。
- ◎ チェックポイント
 - ・ **本堂**（県重文） 慶安4年（1651）の棟札
 - ・ **表門**（県重文） 本堂と同時期、建てられたものと推測されている。

◆ **妙政寺**（日蓮宗）北吉津町

（妙政寺史・おもしろふくやま史）

- ・ 「水野勝俊の菩提寺」

城代家老上田家の菩提寺だったが、勝成の福山入封に従って大和郡山から東町

に移転。当院を2代勝重（勝俊）が息女万寿姫の病平癒の祈祷所と指定。万寿姫は平癒したため、勝俊は自身の一代限りの菩提寺とした。そのため、勝俊の遺骨は東町にあった妙政寺に埋葬された。万寿姫の五輪塔は勝俊の五輪塔の傍に建立されている。

・「東町から現在地に移転」

上田玄蕃直重は寛文6年（1666）、妙政寺を東町から吉津村（現在地）に移した。ところが、移転先に弘宗寺（臨濟宗）があったため、弘宗寺は桜馬場町（現在地）に移された。また、旧本堂は実相寺（日蓮宗）に移された。

吉津村に移って来た妙政寺は「本堂」・「山門」・「鐘楼」が新たに建てられ、のち大改修されたが現存している。「仁王門」は後年、建造された。

・「水野家城代家老上田家の菩提寺」

上田玄蕃直重が上田家の菩提寺として妙政寺を東町から松廻尾山に移した時、次男を^{じっそうじ}実相寺（北吉津町）、三男を^{ちようしやうじ}長正寺（吉津町）とそれぞれの菩提寺とした。妙政寺、実相寺、長正寺は共に日蓮宗である。

● チェックポイント

・ 釣鐘

明暦2年（1656）の銘。東町にあった妙政寺に総奉行神谷治部が承応4年（1655）に主君勝俊が逝去したため、菩提を弔うため翌年、寄進した。

・ 水野勝俊位牌堂表門（唐門）

勝俊が没した承応4年建立。寛文6年、東町から北吉津町の墓所に移され、昭和40年代、墓地を改修した時、「水野勝俊位牌堂の表門」として現在地に移される。

・ 水野勝俊墓域（市史跡）

「五輪塔」

当初、東町にあったが、妙政寺が現在地に移される時、共に移された。勝俊、万寿姫、七人の殉死者（7基）、上田玄蕃夫妻（2基）の五輪塔。

「石燈籠 一对」

旗本奴で有名な水野十郎左衛門（勝成の三男成貞の長男）が奉納。

◆ 渡辺神社 吉津橋の項（P.21）参照 北吉津町

・ 寛永18年（1641）に完成した吉津橋・新橋の完成により「通り町」が誕生、惣門

が新設された。それまでは北から城下へは妙政寺東端辺りの番所（渡辺神社辺り）を通過して入っていた。番所から南下すると本町・桶屋町・深津町を通過して本橋（天下橋）に通じていた。

◆ 胎蔵寺（真言宗）北吉津町

(1) 縁起

イ) 通説（備陽六郡志・新版福山城）

- ・「しょうゆうざん松熊山」と称し、元、奴可郡西城にあり、大富山城主久代宮氏の祈願寺だったが、慶長年中、福島丹波守が神辺に移し、丹波守の祈願寺とする。
- ・元和年中、水野勝成が福山城鬼門守護のため、現在地に移し、このとき、城地に廃跡となり釈迦堂だけ残っていた常興寺の本尊釈迦三尊像を胎蔵寺の本尊とした。

ロ) 新説（備陽史探訪の会会報 109 号 杉原保の常興寺小林定市）

- ・寛永 16 年（1639）、勝重（勝俊）が 2 代藩主となったその年、領内全ての寺社に対し、旧記を提出させた。「水野記」（宝永 4 年 1707）にその内容が記述されている。
- ・（水野記）
 - ① “深津郡吉津村 一向宗^{※1}松熊山常興寺 本尊釈迦 脇立 文殊 普賢 永禄年中、寺領没収される。天正の比 領主杉原某を以って常興寺と為し、則ち田畠一町五反を常興寺に付ける。天正 20 年、この地、毛利家の領地となり依ってのち、悉く没収される。”
 - ② “城下 真言宗 松熊山阿釈迦院胎蔵寺 古来、神辺に在り”

・「①②の解釈」

水野記によれば寛永 16 年の時点、城地に在った常興寺は福山城築城の時、廃寺となったのではなく、吉津村に移され、一方、神辺に在った胎蔵寺は直接、現在地（吉津村）に移されたのではなく、城下（場所不明）に移されたことになる。

したがって胎蔵寺は現在、旧吉津村（現北吉津町）に在ることから旧記が作成された寛永 16 年以降に城下にあった胎蔵寺が吉津村の常興寺を廃し、胎蔵寺となったと解されるのである。すなわち、吉津村の常興寺は現在の胎蔵寺の地にあったと言うことになる。両寺の山号（松熊山）が同じことからこの説を暗示すると言えよう。

承応 4 年（1655）、城下の明王院圓光寺が草戸に移り、理智院定福寺は廃され、寺籍は明王院圓光寺となったが、明王院と同じく胎蔵寺も同じ経緯を踏襲することになる。

※1「水野記」では常興寺は臨濟宗だった筈^{※2}だが、寛永16年時点では一向宗（浄土真宗）になっている。但し、本尊ならびに脇侍像は現存の胎蔵寺本尊・脇侍と変わっていない。

※2「扶桑五山記」（江戸中期作）によれば常興寺は松廼尾山永徳寺と共に京都五山の“諸山”に列せられていた。すなわち、常興寺は永徳寺と共に臨濟宗だったことになる。

(2) 本尊釈迦如来坐像 胎内施入品

イ) 平成13年、胎蔵寺本尊木造釈迦如来坐像が修理された際、胎内より数多くの施入品が発見された。

ロ) その結果、中世の「深津郡杉原保」は福山城地となる常興寺一帯、すなわち芦田川河口東岸（本庄町から丸の内一帯）であったことが判明した。

①「備陽六郡志」

“(水野勝成は) 当城（福山城）の鬼門にこの寺（胎蔵寺）を建て、御城地常興寺の釈迦を本尊に遣わせらる。”

(分かったこと)

⇒ 常興寺は福山城築城までは城地に在った。

②「胎蔵寺本尊胎内施入品」

「法華經書写奥書」 平（杉原）親光

「版本略法華經奥書」
常興寺住持曇叟心華

《現代語訳》（歴史博物館入ボット展示資料より）

右のように、御本尊一体を造立し、八軸の法華經を書写しました。これは、今年が祖母の寂妙禪尼の十三回忌に相当するので、祖母によって育てられた恩に報い徳に感謝するためです。微力ですが精一杯心を込めて、大功が成就するよう努力します。生前の祖母は、君父よりも尊く、親しみがあり、また慈悲の哀れみの気持ちは仏祖にひけを取りません。三宝が必ず私を哀れと思し召し、祖母が成仏でき、また等しく仏のご利益を得られますように、心からお願い申し上げます。敬白。

貞和三年（一三四七）丁亥暮春下二日（二月二十三日）

民部大丞平朝臣親光、敬白。

（花押）

繼宗上座[※]所持畧法華經一部
奉納 日本国備後州深津郡相原保常興禪寺
大佛殿本尊釈迦牟尼如来像中
願以此功德（願わくばこの功德を以って）
普及於一切（あまねく一切に及ぼし）
繼宗与衆生皆共成佛道
（繼宗と衆生と皆共に仏道を成ぜんことを）
貞和三年丁亥三月十六日住持比丘曇叟心華書

※「繼宗上座」は不詳

(分かったこと)

⇒ 常興寺(福山城付近)の在った一帯は中世においては深津郡相原保(杉原保)だったことが判明した。

⇒ 常興寺の本尊釈迦如来は貞和3年(1347)、平(杉原)親光が造立した。

⇒ 中世の備南に一大勢力誇っていた杉原氏は同名である杉原保一帯を本拠地としていたと考えられる。

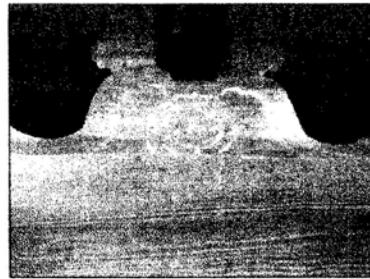
杉原保は従来、木梨杉原氏の居城鷲尾山城を中心に現在の尾道市北部一帯(原田町・木之庄町)とされていたが、これが否定された。

(3) チェックポイント

・山門

大富山城の山門を移したと伝えられる。

墓股には宮氏の紋所「木瓜紋」^{もっこうもん}が刻まれている。



胎蔵寺山門墓股「木瓜紋」



木瓜紋

◆ 道標 ^{みちしるべ} 北吉津町(中)交差点

・「従是東東京大坂道」「従是北石州道」

・福山城下 出入口道標

(北) 石州街道・神辺街道 分岐点(北吉津町)

(東) 笠岡街道始発点(御船町)

(南) 鞆街道・山陽道 分岐点(霞町)

(西) 山陽道から城下への分岐点(津之郷町)

◆ 実相寺(日蓮宗) 北吉津町

・寛文6年(1666)、城代家老上田玄蕃が上田家の菩提寺妙政寺を東町から現在地(北吉津町)に移したとき、玄蕃の次男勘解由直定の菩提寺として創建された。このとき、東町の妙政寺の本堂が実相寺に移された。

◎ チェックポイント

・福山城の石垣

福山城三の丸東外堀内側の石垣だったが、平成17年、マンション建設に当たり、実相寺境内地に移設された。

・神辺城の山門

元神辺城の城門の一部だったと伝えられ、



平成17年(2005)に発掘された石垣
前方は福山駅北口。マンション建設により現在は消滅

福山城築城のとき城内三の丸の屋敷門として移設されたと伝えられている。
明治になって遺構が払い下げとなった時、実相寺の山門に再度、移設された。

◆ **旧妙政寺の本堂**

東町に在った旧妙政寺本堂が解体されて現在地（北吉津町）に移される時、建立された慶安5年（1652）の棟札が外され、替わって移建された寛文6年（1666）の棟札が新たに作られ、本堂に掛けられた。外された棟札は実相寺に保存されている。

◆ **上田勘解由直定の五輪塔**

◆ **吉津橋 惣門跡** （小場家文書・福山領分語伝記・おもしろふくやま史）

- ・寛永18年（1641）、「新橋」（木綿橋）に次いで「吉津橋」が完成。（小場家文書）
- ・吉津橋、新橋が完成するまで北から城下へは千田大峠を通過して奈良津へ下り、吉津の山裾を通過して妙政寺東端の番所（現渡辺神社辺り）から城下に入り、南下して本橋（天下橋）に通じていた。

吉津橋が完成したことにより、横尾茶屋町から千田沼を横切って三軒屋に入り、藪路大峠から吉津橋を通過して城下に入る道が完成した。

以後、吉津橋を渡って惣門から新橋への南北道「通り町」が城下のメイン通りとなった。

◆ **北御門石塁跡** ⑤③ 市史跡

- ・北御門「外柵形」の一部を示しており、「内柵形」はさらに西側に位置する。

◆ **東外堀（内側）石垣列** ① 北御門外柵形と内柵形の南側境目


- ・公式には認められていないが、近隣の住民には外堀石垣跡と伝わっている
- ・⑧①②*⑤②③は南北にほぼ、一直線に並んでいる。

※②はマンション避雷針。一直線を確認するには②を基準にすると良い。

◆ **東側三の丸 物見櫓跡** ⑤② 駅北口ファミリーマート西隣

- ・三の丸物見櫓石垣と北口駐車場出入口の外堀石垣はいずれも東外堀内側の石垣の一部となる。

◆ **東外堀（内側）石垣** ③ 駅北口駐車場出入口

 **備陽史探訪の会 事務局**

〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8

TEL&FAX 084 - 953 - 6157

E-メール b-tan-kai@009191.com

公式ホームページ

<http://www3.plala.or.jp/big-eye/>